

第12回市民協働指針検討委員会 会議録

日 時	平成19年7月12日(木) 18:45~21:00
場 所	202会議室
出席者	委 員 泉谷 清、鎌倉 洲夫、小杉 恵津子、吉田 愛子 久保 純一、松本 史典、瀬川 真弓 恵庭市 企画財政部次長 北林 剛 広報広聴課長 吉田 真俊
<p>1. 質疑及び意見交換</p> <p>事務局： 前回の会議でありましたが、指針案Ver.3を基に文書を読みやすくしていくということで、皆さんに修正案を考えていただいていますので、1ページずつ修正を加えていきます。</p> <p>⇒修正内容へ</p>	

はじめに

かつての向こう三軒両隣の地域コミュニティは、~~急激な社会変化など様々な要因により、生活圏の拡大、人口の集中と過疎、生活様式・生活意識の多様化、家族制度の変革など様々な要因によって変化し市民どうしのつながりも弱まってきました。~~ そうした中、市民には、~~地域に生じる様々な問題は市民要望として全て行政が解決すべきものであり、市民の満足を得られないのは行政の対応不足だとする「行政への依存傾向」の意識も進みました。~~ ~~それが増加し、~~ ~~それと同時に、増加する市民要望に対応するため行政の肥大化を招きました。~~

一方、市民活動団体の中には、~~行政の下請け的な活動から脱し、地域コミュニティの中で、~~ ~~市民の持つ豊かな社会経験、知識や創造性などを十分に活かしながら、主体的に~~ ~~地域の~~ ~~関わりよう~~ ~~と~~ ~~取り組もうとする動きが活発になり、個人でもそうした活動に何らかの形で連携しようとする動きが芽生えてきています。~~ また、~~行政の側でも、地域に合った個性的なまちづくり施策を実現するためには、市民への説明責任を果たしながら行政の透明性を高めるとともに、~~ ~~市民の信頼を獲得し、~~ ~~相互理解と協働を施策推進の柱としていかなければならないとの認識が高まっています。~~

これからのまちづくりは、~~行政を主体としてきた~~ ~~地域の~~ ~~公共的課題解決の仕組みを見直し、市民が~~ ~~相互に、あるいは市民と行政が協力して取り組む新たな仕組みを構築し、~~ ~~市民と行政が~~ ~~一緒に~~ ~~進めていくことがもっとも効果的であると考えられています。~~ ~~そのためには、市民と行政—~~ ~~そして議会がお互いの価値観や立場を理解するとともに、それぞれに果たすべき責任と役割を自覚し、相互に補完しながら、協力してまちづくりを進めていくことが必要です。~~

こうした認識の下、~~市民と行政が地域の独自性に根ざしたまちづくりの方向性を共有し、~~ ~~相互理解と協働によるまちづくりを進めるための指針を策定します。~~

